

## 巻頭言「インターネットの多面性」

2018年にはインターネット上での権利保護に関する議論が盛んに行われた。

プライバシーに関してはGAF（グーグル、アップル、フェイスブック、アマゾン）に対する警戒の声がある。その一方で、5月に施行されたEUの一般データ保護規則（GDPR）への対応に追われた国内企業も多かったと思う。GAFへの情報集中は、ビッグデータの活用による利便性と裏表のリスクもはらむ。個人情報、個人の意図に反して利用されないように、情報を扱う者は責任を負う。

プライバシーと同様に注目を集める著作権については、海賊版サイトに関する議論、いわゆる「漫画村問題」が国内で大きな話題となった。内閣知的財産戦略本部の「インターネット上の海賊版対策に関する検討会議」における議論では、サイトブロッキングの導入可否について委員間で意見が真っ二つに分かれた。最終的に報告書を取りまとめることができずに無期延期という異例の事態となった。海賊版サイトを抑止することや著作権者の権利保護が大切という点では委員の意見は一致していたものの、それを実現するための手法については、対立する双方に譲れない主張があった。会議の無期延期は、ある意味では民主的な議論が行われた結果である。インターネットが実社会と同様に多様な意見を持つ人々で構成されており、昔のようなシンプルな共同体ではなくなったということの証左であろう。

このたびの白書では、10大キーワードに「サイバー戦争」が入っている。これまでもサイバーセキュリティやインターネットガバナンスなど、インターネットが人々の生活に深く浸透するにしたがって発生するさまざまな課題が取り上げられてきた。2019年になり、いよいよ「戦争」がキーワードになった。

サイバー戦争では相手国のインフラへの攻撃を連想するが、政治的な意図を持つフェイクニュースによる世論操作や、スマートフォンその他の通信機器に対する諜報活動なども、社会的影響が大きいかつ防御が難しい。もっともらしい物語が、実は「敵を作る」というフェイクニュースである可能性もある。

インターネットが争いの場や道具にならないよう、インターネットに関わるすべての者には努力を続けていく役目がある。それが、信頼できる社会を作る基盤となるはずである。

2019年1月

一般社団法人日本ネットワークインフォメーションセンター（JPNIC）

理事長 後藤 滋樹



1996, 1997, 1998, 1999, 2000...

## [インターネット白書ARCHIVES] ご利用上の注意

このファイルは、株式会社インプレスR&Dが1996年～2019年までに発行したインターネットの年鑑『インターネット白書』の誌面をPDF化し、「インターネット白書 ARCHIVES」として以下のウェブサイトで公開しているものです。

<https://IWParchives.jp/>

このファイルをご利用いただくにあたり、下記の注意事項を必ずお読みください。

- 記載されている内容(技術解説、データ、URL、名称など)は発行当時のものです。
- 収録されている内容は著作権法上の保護を受けています。著作権はそれぞれの記事の著作者(執筆者、写真・図の作成者、編集部など)が保持しています。
- 著作者から許諾が得られなかった著作物は掲載されていない場合があります。
- このファイルの内容を改変したり、商用目的として再利用したりすることはできません。あくまで個人や企業の非商用利用での閲覧、複製、送信に限られます。
- 収録されている内容を何らかの媒体に引用としてご利用される際は、出典として媒体名および年号、該当ページ番号、発行元(株式会社インプレスR&D)などの情報をご明記ください。
- オリジナルの発行時点では、株式会社インプレスR&D(初期は株式会社インプレス)と著作者は内容が正確なものであるように最大限に努めました。すべての情報が完全に正確であることは保証できません。このファイルの内容に起因する直接のおよび間接的な損害に対して、一切の責任を負いません。お客様個人の責任においてご利用ください。

お問い合わせ先

株式会社インプレスR&D

✉ [iwp-info@impress.co.jp](mailto:iwp-info@impress.co.jp)